



長崎市立橘小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

かがやけ ひびけ たちばなキッズ！

Tachibana TIMES

令和7年3月7日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ アタッチメント（愛着の形成）理論について

突然ですが、「アタッチメント」という言葉をご存知でしょうか？現代の子どもたちは「アタッチメント（愛着の形成）」がうまくいっていないと言われます。

アタッチメントとは、簡単に言うと「**子どもが安心して信頼できる特定の大人との絆（愛着）**」のことです。この絆は、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で、とても大切な土台のようなものです。

例えば、迷子になった子どもが「ママ～!」と泣きながら駆け寄ってくる姿を見たことがあるかと思います。これは、**子どもが大好きな人に「守ってもらえる」という安心感**を持っているからこそできる行動です。これは私たち教員がなり替わることができない、保護者にしか与えることができない安心感です。

この安心感があると、子どもは新しいことに挑戦する勇気を出すことができます。例えば、新しいおもちゃで遊んでみたり、友達と積極的に話しかけてみたりするなど、様々なことに興味を持ち、積極的に行動するようになるのです。

○アタッチメント（愛着）がもたらす効果

アタッチメントがしっかりしていると、子どもは次のような良い影響を受けることが期待できます。

心の安定：安心感を持って、感情をコントロールしやすくなります。

社会性の向上：友だちと仲良く遊んだり、コミュニケーション能力が向上したりします。

学習意欲の向上：学校での学習にも積極的に取り組むようになります。

○大人の役割

子どもが健やかに成長するためには、大人の存在が欠かせません。私たち大人は、子どもにとって「**安心の基地**」のような存在となる必要があります。



子どもは、新しい世界へ飛び出すときに、「いつでも戻ってこられる場所」を求めています。それが、私たち大人なのです。例えば、公園で遊んでいる子どもが急に不安を感じた時、「家族が見ている」と分かっているならば、安心して遊び続けることができます。

○保護とサポートのバランス

「安心の基地」としての大人には、**保護とサポート**の2つの役割があります。

- ・**保護**：**子どもたちの安全を守ること**です。例えば、自転車の練習をする子どものそばで見守ることがこれに当たります。
- ・**サポート**：**子どもたちが自分で挑戦できるよう、手助けをすること**です。例えば、怖がっている子どもに「大丈夫だよ、一緒にやってみよう!」と声をかけることがサポートです。

この2つを上手に使い分けることで、子どもは「守られている安心感」と「自分でできる自信」を同時に育てられます。

最後に、**子どもへの具体的な接し方**についてです。ここでは「適切な接し方」を3つのポイントにまとめました。

1. 自立を尊重する:

子どもが自分で決めたことを、できるだけ応援してあげましょう。例えば、「今日は青い服がいい!」という子どもの**自己決定**を尊重することが、自立心の第一歩です。

2. 小さな成功を褒める:

子どもが「できた!」と感じた瞬間を見逃さずに褒めましょう。例えば、「すごいね、自分で靴を履けたんだね!」という褒め言葉は、**自信を育てる栄養**になります。

3. 失敗を受け入れる:

子どもが失敗しても、それを否定せず「次はこうしてみようか!」と**前向きにサポート**しましょう。これにより、子どもは「失敗しても大丈夫」と思えるようになります。

安心感と自立心は、こうした日々の積み重ねから生まれます。アタッチメントは、子どもたちの成長を支える上で非常に重要な要素です。私たち大人も、子どもたちとの信頼関係を築き、心の成長をサポートしていきましょう。

宮原のつぶやき

以前私が参加した講演会で聞いたことをもとに、今回の学校だよりを書かせてもらいました。自分を振り返ってみると、思春期に反発はしていても、岐路に立った時に、考えたり、判断したりする基準は、学童期に親から受けた躰や教えだったように思います。そう考えると、小学校6年間の親との関わりは、あっという間だったけれど、そのとき親の言動や後ろ姿に感じたことは、自分の人生に大きな影響を与えているなあと思えてくる今日この頃です。